

「姿勢低くして頭守って 地震想定 外国人向けに防災講習」



地震発生の場合を聞いて、かがんで頭を手で守る入居者ら＝彦根市川瀬馬場町のビレッジハウス川瀬で

姿勢低くして頭守って

地震想定 外国人向けに防災講習

彦根

入居者の約4割を外国人が占める彦根市川瀬馬場町の集合住宅「ビレッジハウス川瀬」で25日、外国人向けに地震を想定した防災講習があった。建物の管理運営会社「ビレッジハウス・ス川瀬」が主催した。

「マネジメント」（東京）が主催し、住民8人が参加した。

講義では、県地域防災アドバイザーの笠原恒夫さんが登壇し、「日本は地震王国」だと紹介。震度6強以上の地震では立つことさえ困難になることや、家具の転倒やガラスの飛散、火災などの危険性があることなどを指摘し、地震が起きた時は「まず姿勢を低くし、頭を守り、動かない」ことで命を守るように伝えた。避難の手順や避難所での生活、防災グッズの解説もあった。

講義が終わった直後に地震発生呼びかけがあり、参加者は身を守るためにしゃがんで頭を守り、地震発生時の初動を確認した。このほか、豚汁の炊き出しもあった。

参加したペルー国籍のタナカ・サユリさん(28)は「避難所になった体育館の写真が印象に残った。紹介

された家具のストッパーを買えば、地震対策ができる

「気がする」と話した。

(名倉航平)